

[2016]九州大学情報統括本部年報 : 2016年度

<https://hdl.handle.net/2324/2198501>

出版情報 : 九州大学情報統括本部年報. 2016, pp.1-. Information Infrastructure Initiative, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :



第1章 学術情報研究部門

1.1 スタッフ一覧

職名	氏名	研究キーワード
教授	廣川 佐千男	機械学習,検索エンジン,テキストマイニング,推論システム,証明論
准教授	鈴木 孝彦	演繹データベース,論理プログラミング,機能論理プログラミング,CAD データベース,認証,PKI,属性認証
准教授	伊東 栄典	Web マイニング,Web サービス,情報検索,情報統合,XML,分散システム,ネットワーク,協調システム,ソフトウェア工学
助教	中藤 哲也	テキストマイニング,Web マイニング,文字列照合,計量書誌学

1.2 研究事例紹介

利用者投稿型コンテンツの多様性動向に関する研究

伊東栄典

1.2.1 はじめに

近年 CGM (Consumer Generated Media) や UGC(User Generated Content)と呼ばれるコンテンツが人気である。YouTube やニコニコ動画, 小説家になろう(syosetu.com), 画像の Pixiv などの CGM サイトには毎日多数の投稿があり, 膨大なコンテンツが蓄積されている。殆どは他愛のないコンテンツであるけれども, 中には TV や出版社などの従来メディアで提供されていたコンテンツと同程度の品質をもつコンテンツも増えている。動画投稿サイトには楽曲も多数投稿されている。小説・音楽・静止画・動画は有機的に連携し, 多様な電子コンテンツが爆発的に生産されている。

多くの CGM サイトでは, コンテンツへの評価尺度に閲覧回数を用いている。他にも閲覧者からの評価値, お気に入り(ブックマーク)登録数を用いる場合もある。これらの評価尺度は概ねコンテンツの人気を表す。閲覧回数によるランキングは, CGM 開始期には有効に働き, 作者のコンテンツ作成動機や品質向上を促す効果があったと考えられている。開始初期に多様な分野のコンテンツが存在していた CGM サイトに対し, 近年, コンテンツの多様性が失われ画一化が進んでいるとの指摘が有る。2012年に提供されたニコニコデータ・セットを分析した結果, ニコニコ動画の音楽カテゴリに投稿される楽曲コンテンツでは, 上位100位のうち90%がボーカロイド音楽である。同様に「小説家になろう」でも上位100位の小説はほぼ全部「ファンタジーな異世界に転生するもの」になっている。

多様性喪失の原因として次の仮説を考えている。現実世界の書店や図書館と異なり, PC やタブレットの画面では多数のコンテンツを一覧できない。そのためコンテンツを試すには一つ一つ見

るしかない。しかし自力で試すには時間が掛かり過ぎる。一方、既に自分が知る分野は背景知識を持つため新規コンテンツへの理解が速い。そのため、利用者は既知の分野のコンテンツを見たがる傾向があると思われる。作者も、人気を得やすい分野のコンテンツを作りたがる傾向がある。これらの理由からコンテンツに偏りが出て、多様性が失われていると考えている。

1.2.1 対象データ

本研究では、利用者投稿型コンテンツの多様性動向の分析を行う。研究対象は「ニコニコ動画」に投稿される動画と、「小説家になろう」に投稿されるオンライン小説とした。ニコニコ動画のデータは、国立情報学研究所の提供する情報学研究リポジトリで提供されているニコニコデータセットを用いた。「小説家になろう」のデータは自作の収集クローラで収集した。表1にニコニコデータセットのデータ件数を、表2に「小説家になろう」から収集したデータの件数を示す。また図1に各月の新規コンテンツ投稿件数を示す。

表1：ニコニコデータセットのデータ件数

項目	内容 (Ver.1)	内容 (Ver.2)
データ収集時点	2012年12月	2016年9月
コンテンツの投稿時期	2007年3月~2012年11月	2007年3月~2016年8月
データ型式	JSON型式	JSON型式
データ件数 (動画数)	8,305,696	14,269,919

表2：「小説家になろう」の収集データ件数

項目	内容
データ収集時点	2016年12月
コンテンツの投稿時期	2004年7月~2016年11月
データ型式	YAML型式
データ件数 (小説タイトル数)	232,096



図1：各月のコンテンツ投稿数（左：ニコニコ動画，右：小説家になろう）

1.2.3 SumCos 値によるコンテンツの多様性動向

コンテンツ集合の多様性を定量的に評価するため、ジニ係数、情報エントロピー、コサイン類似度の総和 (SumCos 値) の3つを検討した。これらのうち、ジニ係数および情報エントロピーは指標として適切でないことが分かった。ここでは、3つ目の指標であるコサイン類似度の総和について説明する。その指標で2つの CGM データセットを分析した結果を示す。

何らかの数値ベクトルで各コンテンツ (文書) を表現すると、図 2 に示すように、ベクトルを用いて空間上に文書を配置できる。もし図 2 の左図のように、点が散らばるならば、2 点間の距離は遠く、かつ類似度は小さくなる。右図のように点が偏るならば、2 点間の距離は近く、類似度は大きくなる。

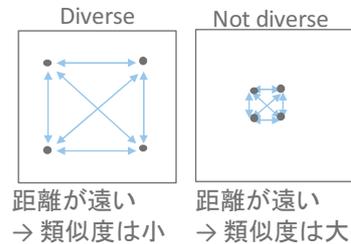


図 2 : 類似度と多様性

文書のベクトル化には様々な方法がある。今回は、各文書に出現する単語の出現頻度 (出現回数) でベクトル化する文書ベクトルモデルを用いた。類似度についても様々な方法がある。今回は最も利用されているコサイン類似度を用いる。図 3 に示すように、文書集合内の全ての 2 対についてコサイン類似度を求め、その総和を算出したものが SumCos 値である。

		Words					
		w_1	w_2	...	w_k	...	w_n
Docs	d_1	3	2		0		1
	d_2	0	5		4		0
	⋮						
	d_i	2	0		3		10
	d_m	1	2		0		1
		$tf(i, w_k)$					

$$\cos(i, j) = \frac{d_i \cdot d_j}{|d_i| |d_j|}$$

$$\text{SumCos}(D) = \sum_{i=1}^{n-1} \sum_{j=i+1}^n \cos(i, j)$$

$$\text{SumCos}_{\text{ave}}(D) = \frac{\text{SumCos}(D)}{nC_2}$$

図 3 : 文書ベクトルとコサイン類似度による SumCos 値

SumCos 値を2つの CGM データセットに適用した。その結果を図 4 と図 5 に示す。図 4 はニコニコ動画の SumCos 値の月間推移である。ニコニコ動画のデータでは、SumCos 値は上昇傾向を示している。これは類似度が上昇している事をしめしている。すなわち、多様性が減少と、どこかの分野への偏りを示す。

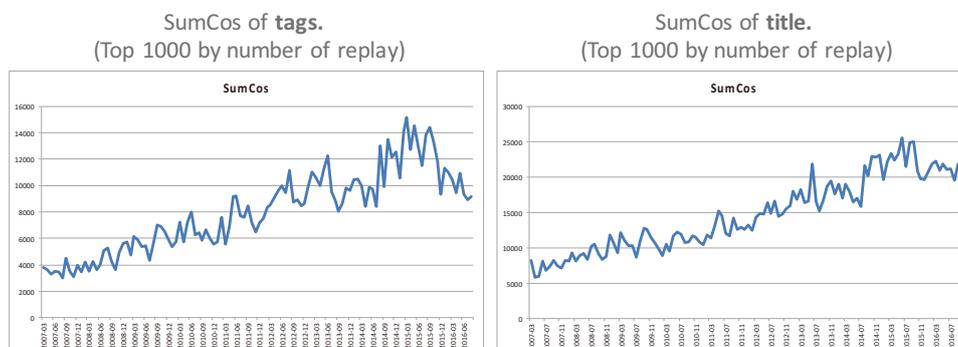
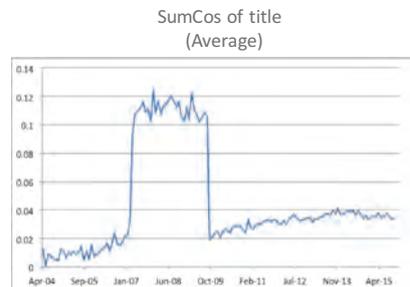


図 4 : SumCos 値の推移 (月ごと、ニコニコ動画。右 : タグのみ、左 : タイトルのみ)

図5は小説家になろうの、各小説のキーワードを用いた SumCos 値の月間推移である。図5は小説家になろうデータの SumCos 値推移である。図5の途中で、2007年4月から2009年9月の間、値が急激に増加している。この期間を除くと SumCos 値は全体として上昇している。ニコニコ動画と同様に類似度の上昇を示しているため、多様性が減少している。



1.2.4 おわりに

多様性減少は偏りにつながるため、今後は偏り具合を分析する。X-Means クラスタリングによる偏り調査を再度行なう。その際、Word2Vec や Doc2Vec による文書のベクトル化も試す。Word2Vec や Doc2Vec を適用する場合、学習用コーパスとして「ニコニコ大百科」が利用できると考えている。ベクトル化の精度が良ければクラスタリングも良いものになると予想できる。

利用者のコンテンツ選択モデルを確立のために、閲覧回数を目的関数とする回帰分析と、何らかの数理モデルによる閲覧数推定を考えている。回帰分析では、線形回帰分析、非線形回帰分析、および深層学習による回帰分析を行なう。これらを、ジャンル毎や投稿時期毎に分けて回帰分析を適用することで、部分集合毎の違いを詳細に調べる。深層学習では、動画のサムネイル画像も利用したい。

発表論文

- [1] Kazuhisa Noguchi, Tomoya Iida, Eisuke Ito, An analysis of CGM contents pageview using SIR Model and GBM, Proc. of ICCTD2017, pp.19-21, 2017.
- [2] 本田優也, 伊東栄典, 利用者投稿型小説サイトにおけるキーワードの多様性分析, 情報処理学会 火の国情報シンポジウム 2017, A2-4, 2017.
- [3] Kyohei Kamihata, Eisuke Ito, A quantitative contents diversity analysis on a consumer generated media site, Proc. of AROB 21st 2016, pp.436-440, 2016.

1.3 研究内容紹介

1.3.1 廣川 佐千男

研究内容

研究のスローガンは、「データ*目的*技術」と体力です。文書群を「データ」として、具体的な「目的」に応じて、意味のある情報を抽出する「テキストマイニング技術」の研究を行っています。例えば、これまで、診療記録から長期入院患者の特徴抽出、営業日報から営業マンの売上推定、学生の授業コメントから成績予測、万葉集と古今集の自動識別、Web 健康情報の信頼性評価、有価証券報告書から企業の比較、倒産情報から倒産理由抽出、特許情報から研究組織の構造推定などの研究を行い、国際会議やジャーナルあるいは特許として発表してきました。研究の手順としては、まず、対象の文書群についての専用検索エンジンを作り、分析観点を色々切り換え、数万回の検索を自動的に繰り返します。結果は統計的に集計したり、機械学習で分類したり、特徴語の関連を可視化したりします。計算機の力を借りて、人手では容易に実現できない、文書データの深い理解を目指しています。

所属学会名

人工知能学会, 情報処理学会, 電子情報通信学会

主な研究テーマ

- 手掛語と内容語の双対ブートストラップ・マイニング
- データマップ法と概念グラフによる次世代検索エンジンの研究開発
キーワード：検索エンジン, マトリックス検索, 概念グラフ, 大学発ベンチャー, 2006.08 ～ .
- リンク情報と Web データの半構造性を融合した高品質コンテンツ・マイニング
キーワード：Web マイニング, データマイニング, WWW, XML, 文書検索, 検索エンジン, 特許検索, データベース, 2001.04 ～ .
- 専門検索サイトの動的統合による次世代検索システムの研究開発
キーワード：検索エンジン, メタサーチ, 1993.04 ～ .
- 構成的論理の推論構造の研究
キーワード：証明論, 型理論, ラムダ計算, 線形論理, 適切さの論理, 直観主義論理, 1997.01～

研究プロジェクト

- テキストマイニングによる医療プロセスのキーファクター抽出
2015.04～, 代表者：廣川佐千男

研究業績

- 原著論文
 1. Chao Zeng, Tetsuya Nakatoh, Hiroyuki Takeshita, Ryoji Hisadomi, Masanari Eguchi, Sachio Hirokawa, Discovery of Cultural Tourism Preference in Multilingual Tourism Information Site, Proc. ACIS2016, pp.129-134, 2016.07.
 2. Takanori Yamashita, Yoshifumi Wakata, Hidehisa Soejima, Naoki Nakashima, Sachio Hirokawa, Structuralization of Variance Text Records in Clinical Pathway, Proc. APAMI2016, p.85, 2016.11.
 3. Jun Zeng, Feng Li, Haiyang Liu, Junhao Wen, Sachio Hirokawa, A Restaurant Recommender System Based on User Preference and Location in Mobile Environment, pp. 55 - 60, 2016.07.
 4. Brendan Franagan, Sachio Hirokawa, Automatic Extraction and Prediction of Word Order Errors From Language Learning SNS, Proc. 5th IIAI-AAI, pp. 292 - 295, 2016.07.
 5. Tetsuya Nakatoh, Hayato Nakanishi, Toshiro Minami, Kensuke Baba, Sachio Hirokawa, Bibliometric Search with Focused Citation Ratio, Proc. 5th IIAI-AAI, pp. 150 - 153, 2016.07.
 6. Kiyota Hashimoto, Tasanawan Soonklang, Sachio Hirokawa, Feature Words of Moves in Scientific Abstracts, Proc. 5th IIAI-AAI, pp.749-754, 2016.08.
 7. Naoya Onimura, Takanori Yamashita, Hidehisa Soejima, Sachio Hirokawa, Generation of Sentence Template Graph from SOAP Format Medical Documents, Proc. CSCI2016, pp.159-162, 2016.11.
 8. Wentao Li, Min Gao, Hua Li, Jun Zeng, Qingyu Xiong, Sachio Hirokawa, Shilling Attack Detection in Recommender Systems via Selecting Patterns Analysis, 99-D(10), pp.2600-2611, 2016, 2016.07.
 9. Jie Zou, Ling Xu, Mengning Yang, Xiaohong Zhang, Jun Zeng, Mengning Yang, Xiaohong Zhang, Jun Zeng, Sachio Hirokawa, Automated Duplicate Bug Report Detection Using Multi-Factor Analysis, 99-D(10), pp.2600-2611, 2016, 2016.07.
 10. Tetsuya Nakatoh, Hayato Nakanishi, Toshiro Minami, Kensuke Baba, Sachio Hirokawa, A Visual Citation Search Engine,, Proc. HCI2016, 2016.07.
 11. Brendan Franagan, Sachio Hirokawa, Support Vector Mind Map of Wine Speak, Proceedings of HCI2016, 2016.07.
 12. Fumiya Okubo, Sachio Hirokawa, Miaato Oi, CHENGJIU YIN, Atsushi Shimada, Kojima Kentaro, Masanori Yamada, Hiroaki Ogata, Learning Activity Features of High Performance Students, Proc. LAK2016, 2016.04.

研究資金

- 科学研究費補助金
 1. 2015年度～2017年度, 基盤研究 (B), 代表, テキストマイニングによる医療プロセスのキーファクター抽出

教育活動

- 教育活動概要

大学院システム情報科学府情報知能工学専攻の協力講座として広域分散データ特論・演習を担当し、インターネット検索エンジンなどの基礎となる技術を教えています。大学院統合新領域ライブラリーサイエンス専攻博士課程も担当しています。また、学部の講義では工学部電子情報工学科において、プログラミング論 I を担当しています。同学科の学部学生についての卒業研究と、大学院システム情報科学府情報知能工学専攻ならびに大学院統合新領域学府ライブラリー専攻の修士、博士課程の指導も行っています。

1.3.2 鈴木 孝彦

研究内容

- 九州大学教務事務システムの作成と運用支援
- 九州大学学務情報システムの計画支援
- 日本語 WordNet およびテキストマイニング
- 機械学習

所属学会名

情報処理学会

主な研究テーマ

- 特徴語抽出による感性分析
キーワード：感性分析，特徴語，語のベクトル化，2015.05～2017.05.
- 日本語 WordNet における意味構造の研究
キーワード：ワードネット，オントロジー，テキストマイニング，2012.05～2016.05.
- 混合道路交通における低速車両の移動ロケーションデータの収集と分析方法の研究
キーワード：ロケーションデータ，Web マイニング，低速車両，2012.04～2017.04.

研究業績

- 原著論文
 1. Takahiko Suzuki, Sachio Hirokawa, Nao Wariishi, Interactive Visualization System of Contexts, Proc. ICCTD 2017, 2017.02.
 2. Takahiko Suzuki, Sachio Hirokawa, Nao Wariishi, Discrepancy between Similarity and Polarity of Words Used in Sales Reports, Proc. AROB 2016, 2017.01.
 3. Takahiko Suzuki, Sachio Hirokawa, Koki Miyata, Difficulty of Words and Their Ambiguity Estimated from the Result of Word Sense Disambiguation, Proc. KICSS 2016, 2016.10.

- 学会発表

1. 鈴木孝彦, 廣川佐千男, 相場 亮, 割石 直, 野口 和久, 対話的文脈可視化システム, 電子情報通信学会, 2016.12.09.
2. 鈴木孝彦, 廣川佐千男, 野口 和久, 割石 直, 同義語に着目した日報からの営業成績推定, 電子情報通信学会, 2016.12.09.

教育活動

- 担当授業科目

1. 2016 年度・後期, 情報処理概論
2. 2016 年度・後期, プログラミング言語特論

1.3.3 伊東 栄典

研究内容

- 情報検索・情報統合・情報連携

Web上や電子データとして蓄積されている膨大なデータから、意味のある知識抽出や、抽出した知識を統合する研究を行っている。具体的には、Webデータからの情報抽出、利用者コメントからの知識発見、コメントやリンク構造を利用したコンテンツ推薦などを行っている。ソーシャルブックマークからの新規情報の発見や、「クチコミ」と呼ばれる情報サービスからの知識抽出について研究している。

- 集合知を利用した高品質コンテンツ検索

情報検索および知識発見に関する研究の具体的な対象として、ネット上のコンテンツを対象とした研究を行なっている。近年、ユーザ投稿型のコンテンツサービスが普及しており、動画・写真・静止画・小説などが増大している。これらのサービスでは、投稿機能だけでなく、視聴者からのコメント・タグ付け・リンクなどのフィードバック機能もある。視聴者からのフィードバックは、Folksonomyや集合知と呼ばれるもので、これを活用したコンテンツ検索を行なっている。

- 電子認証基盤および認証フェデレーション構築

特定メンバーへの情報提供サービスや、オンラインでの商取引および申請のように、利用者を正しく認証する電子認証が求められている。本研究では電子認証機構および認可機構の構築と、情報サービス連携のための認証連携機構の構築を目的としている。多様な組織が柔軟にサービスを提供しあうための、電子認証基盤の構築についての研究開発を行う。その実現のために、同じポリシー・標準規格での認証基盤となるフェデレーションについての研究開発を行う。電子認証基盤として、認証のためのデータベース構築、アプリケーションとなる情報サービスでの認証・認可機構の実現などが課題となる。組織内で使う、柔軟な利用者認証・認可システムの実現を目指す。

所属学会名

情報処理学会, 電子情報通信学会

主な研究テーマ

- 利用者投稿型コンテンツの多様性動向分析
キーワード：コンテンツ, 利用者投稿型, 多様性, エントロピー, コンテンツ選択モデル, 2014.04～2018.03.
- 大規模データ解析
キーワード：大規模データ, 分散処理, 統計解析, クラウド・コンピューティング, 2012.06～.
- 情報検索・情報統合・情報連携
キーワード：Information retrieval / extraction / integration / discovery, Data mining, Web mining, 2000.04～.

研究業績

- 原著論文
Yoshiaki Kasahara, Takuya Kawatani, Eisuke Ito, Koichi Simozono, An Analysis of Relationship between Storage Usage Distribution and Per-User Quota Value, ACM, 153-158, 2016.11.

研究資金

2015 年度～2017 年度, 基盤研究(C), 代表, 利用者投稿型コンテンツの多様性動向分析

教育活動

- 担当授業科目
 1. 2016 年度・前期, プログラミング演習 1
 2. 2016 年度・前期, 暗号と情報セキュリティ特論

大学運営

- 学内運営に関わる各種委員・役職等
 1. 2012.06～, 情報統括本部・キャンパスクラウド事業室 室長
 2. 2012.06～, 情報統括本部・認証基盤事業室
 3. 2011.04～, 情報統括本部・全学基本メール事業室

1.3.4 中藤 哲也

研究内容

研究活動：

- 近研究動向分析、研究調査手法に関する研究

研究者が研究を行うに際して、関連する研究の調査は非常に重要なタスクです。ジャーナルインパクトファクタなどの指標を用いて読むべき論文誌を選択したり、引用数を用いて重要な論文を探し出したりする作業は、地道で手間の掛かる作業ですが非常に重要です。本研究では、より適切な論文誌、あるいは論文を発見するための新たな指標を提唱しております。また、研究分野の全体像を把握し、キーとなる研究の研究を発見するために、関連研究の全体像を可視化する手法の提案も行っております。

- マイナートピックの発見・抽出手法に関する研究

テキストマイニングの研究においては、特徴語の頻度をベースとした情報抽出を行うことが一般的です。一方で頻度の低い語の中にも、興味深いトピックを構成している語が存在し、それらをうまく特定することが出来れば、有用な情報として利用可能です。本研究では、観光情報を対象として、マイナーであるが重要な情報をうまく特定し、そのような情報抽出に信頼性を付与する新たな手法を提案しております。

業務：

学務情報処理に関する業務をサポートしております。

また、九州大学の情報基盤に関する広報を担当しております。

所属学会名

情報処理学会, 人工知能学会, 言語処理学会, 日本データベース学会, 電気学会

主な研究テーマ

- 研究動向分析、研究調査手法に関する研究

キーワード：研究動向分析，計量書誌学，2014.04～.

- テキストマイニング

キーワード：テキストマイニング，データマイニング，ウェブマイニング，情報抽出，検索エンジン，観光情報，2010.04～.

- 近似文字列照合アルゴリズムを用いたウェブマイニング手法の研究
キーワード：文字列照合アルゴリズム，テキストマイニング，2002.04～.

研究業績

- 原著論文

1. Tetsuya Nakatoh, Kenta Nagatani, Toshiro Minami, Sachio Hirokawa, Takeshi Nanri, and Miho Funamori: "Analysis of the Quality of Academic Papers by the Words in Abstracts," Proc. of the 19th International Conference on Human-Computer Interaction (HCI International 2017), HIMI 2017, Part II, LNCS 10274, DOI: 10.1007/978-3-319-58524-6_34, pp.434-443, 2017. (in press)
2. Kensuke Baba, Tetsuya Nakatoh, and Toshiro Minami: "Plagiarism Detection Using Score Vectors Weighted by Distributed Representation of Words," Proc. of the 19th International Conference on Human-Computer Interaction (HCI International 2017), HIMI 2017, Part II, LNCS 10274, DOI: 10.1007/978-3-319-58524-6_34, pp.341-350, 2017. (in press)
3. Tetsuya Nakatoh, Sachio Hirokawa, Toshiro Minami, Takeshi Nanri, and Miho Funamori: "Assessing the Significance of Scholarly Articles using their Attributes," Proc. of the 22nd International Symposium on Artificial Life and Robotics (AROB2017), pp.742-746, 2017.
4. Kensuke Baba, Tetsuya Nakatoh, and Toshiro Minami: "Plagiarism Detection Using Document Similarity Based on Distributed Representation," Proc. of the 8th International Conference on Advances in Information Technology (IAIT2016), Procedia Computer Science, Vol.111, DOI: 10.1016/j.procs.2017.06.038, pp.382-387, 2016.
5. Emi Ishita, Tetsuya Nakatoh, Kohei Hatano, and Michiaki Takayama: "An Attempt to Promote Open Data for Digital Humanities in Japanese University Libraries," Proc. of the 18th International Conference on Asia-Pacific Digital Libraries (ICADL2016), LNCS 10075, DOI: 10.1007/978-3-319-49304-6_32, pp.269-274, 2016.
6. Kumiko Kanekawa, Tetsuya Nakatoh, and Sachio Hirokawa: "University Evaluation by Open Data: A Case Study on the Effect of International Exchange Agreement," Proc. of the Eleventh 2016 International Conference on Knowledge, Information and Creativity Support Systems (KICSS2016), pp.44-47, 2016.
7. Chao Zeng, Tetsuya Nakatoh, Hiroyuki Takeshita, Ryoji Hisadomi, Masanari Eguchi, and Sachio Hirokawa: "Discovery of Cultural Tourism Preference in Multilingual Tourism Information Site," Proc. of the fifth Asian Conference on Information Systems (ACIS2016), pp.128-134, 2016.
8. Kensuke Baba, Toshiro Minami, and Tetsuya Nakatoh: "Predicting Book Use in University Libraries by Synchronous Obsolescence," Proc. of the 20th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering (KES-2016), Procedia Computer Science, Vol.96, DOI: 10.1016/j.procs.2016.08.082, pp.395-402, 2016.
9. Tetsuya Nakatoh, Hayato Nakanishi, Toshiro Minami, Kensuke Baba, and Sachio Hirokawa: "A Visual Citation Search Engine," Proc. of the 18th International Conference on Human-Computer Interaction (HCI International 2016), HIMI 2016, Part I, LNCS 9734, DOI: 10.1007/978-3-319-40349-6_17, pp.269-274, 2016.
10. Tetsuya Nakatoh, Hayato Nakanishi, Toshiro Minami, Kensuke Baba, and Sachio Hirokawa: "Bibliometric Search with Focused Citation Ratios," Proc. of the 5th IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI 2016), DOI:10.1109/IIAI-AAI.2016.227, pp.150-153, 2016.
11. Tetsuya Nakatoh, Satoru Uchida, Emi Ishita, and Toru Oga: "Automated Generation of Coding Rules: Text-Mining Approach to ISO 26000," Proc. of the 5th IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI 2016), DOI:10.1109/IIAI-AAI.2016.210, pp.154-158, 2016.

- 学会発表

1. Toru OGA, Tetsuya Nakatoh, Satoru Uchida, Redefining political discourses and reconstructing social bonds: How Japanese Diet Members use Twitter as a complement to their political activities, Biopolitics 2.0: Digital Subjects in MANCEPT Workshops, 2016.09.08.
2. 金川 久美子, 中藤 哲也, 廣川 佐千男, 大学の教育研究能力指標としての国際交流協定の根拠資料調査, 第5回 大学情報・機関調査研究集会 MJIR2016, 2016.07.13.

受賞

ACIS2016 Best Runner-up Paper Award, ACIS International Steering Committee, 2016.10.

研究資金

- 科学研究費補助金

1. 2016年度～2020年度, 基盤研究(B), 分担, 国連グローバル・コンパクトを中心としたグローバルCSR レジームの研究
2. 2015年度～2017年度, 基盤研究(C), 代表, Webからのマイナートピック抽出における信頼性確保に関する研究
3. 2015年度～2017年度, 基盤研究(B), 分担, テキストマイニングによる医療プロセスのキーファクター抽出

- 学内資金・基金

1. 2016年度～2016年度, 平成28年度QRプログラム, 分担, 謝る・許す・和解するー政治的修復の計量テキスト分析
2. 2015年度～2016年度, 九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト, 分担, デジタル人文学における研究資源オープン化と研究プラットフォーム構築に向けた基盤的研究
3. 2015年度～2016年度, 九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト, 分担, 多次元型グラウンディッド・テキストマイニング (MGTM) を用いた「企業の社会的責任 (CSR)」の異分野融合研究

教育活動

- 担当授業科目

1. 2016年度・後期, 情報システム論.

2. 2016 年度・後期, 分散システム特論
3. 2016 年度・前期, 情報処理概論

大学運営

- 学内運営に関わる各種委員・役職等
 1. 2014.04～, 情報統括本部 広報事業室 室長
 2. 1994.05～, 入学試験機械処理委員会委員